

第46回 教育課程小委員会議事録

1 日時・場所

2013年12月2日(日) 10:30-16:00 都立両国高校

2 参加者

矢島ミ、畠山、瀧上、宮嶋、南島、飯田、根本、小尾、牧野(地学教育学会・オブザーバー)

3 前回議事録の確認

議事録案の通りに承認された。

4 中教審・理数系学会・他研究団体等の情勢報告

○中教審・理数系学会・他研究団体

- ・教育再生実行会議(2013年10月31日 第14回資料・第4次提言)による到達度テスト(基礎レベル・発展レベル)の導入について情報交換を行った。
- ・サイエンスアゴラ(11/9)において、次期指導要領改訂での必修理科科目のあり方について、理科の学習でどんな能力を身につけるか、理科で学ぶことの社会的な要請の観点等重要であるという議論が行われたことが報告された。
- ・地質学会関東支部主催の地質研究サミット(11/24)において、地学教育及び防災教育に関する教育セッションが開催されたことが報告された。
- ・理数系学会(9/30)において、指導要領改訂に結びつく話題はなく、情報交換を中心に行われたことが報告された。
- ・関東理科教育研究会(11/22)の地学分科会において、教科書の用語の不統一が地学が専門でない教員が授業をする際に支障になっているという議論が行われたことが報告された。

○その他

- ・第6回国際地学オリンピックの予選参加者が過去最高の1689名に上ったことが報告された。
- ・次年度地学基礎教科書採択部数について、地学基礎の履修率がさらに増加する見通しであることが報告された。

5 協議

(1) 今後の学習指導要領改訂の観点について

- ・全ての生徒に共通に身に付けさせる資質・能力「コア」を地学の視点で考える際に、一例として分類に基づく自然の多様性の認識が重要であるという意見が出された。
- ・防災、環境の観点を理科教育に盛り込むにあたり、災害や環境問題を引き起こす自然現象の原理や仕組みについて言及することが、地学教育の役割であることを確認した。

(2) 各WGの検討日程について

A案(現行「地学基礎」を基礎にした選択必修履修科目)、B案(「教養理科」を基礎にした共通必修履修科目)、C案(環境・防災を含む新教科)の各WGでの検討にあたり、WGのまとめ役が叩き台を示した後、1ヶ月に1度程度のペースで検討を行い、4月末の連合大会パブリックセッションで成果を報告することを確認した。

(3) 各種働きかけについて

○地学教育の現状(特に地学基礎の履修率に関して)と今後の課題について

11月に作成した修正案について、畠山教育問題検討委員長が津田会長と協議を行い、来年1月中には文科省に提出する段取りを進めることを確認した。

○校種・教科を越えて整合性のある学習内容の要望

根本委員より草案が提出され、これを基に検討を行い、遅くとも来年7月を目途に提言を提出することを確認した。

○各都道府県教委への要望

前回提出された草案について、その後の検討を進めることが確認した。要望書の提出については、地学オリンピックの各県コーディネーターとの協力も視野に入れて、検討を行うこととした。

(4) 連合大会・教育セッション(パブリック)について

講演の内容・人選について以下のように決定した。

- ①今回のセッションに至る経過報告(発表者:世話人)
- ②理科を専門としない方が理科教育に求める内容について(発表者:できれば中教審委員)
- ③ABC案の内容についての報告(発表者:各WGから代表者)

なお、中教審委員については、世話人会で早急に人選を進めることを確認した。

5 次回小委員会について

1月より各月1度のペースで各WGが検討を行うに際し、メールにて日程を調整することを確認した。なお、各WGごとの検討を重視し、全体会ではなく、各WGごとの開催になることも視野に入れ、メールにて各委員の都合をたずねて開催日を決定することを確認した。